この添付文書をよく読んでから使用してください。
また、必要時に読めるように保管しておいてください。

体外診断用医薬品　　** 2022 年 10 月改訂(第 3 版)
　　* 2022 年　6 月改訂(第 2 版)

製造販売届出番号:13E1X80206000199

コバス® システム-L

ハプトグロビンキット

コバス®試薬 HAPT Gen.2

【全般的な注意】

1. 本品は体外診断用であり、それ以外の目的には使用しないでください。
2. 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状やほかの検査結果などと併せて、担当医師が総合的に判断してください。
3. 添付文書に記載された使用目的及び用法・用量に従って使用してください。記載された使用目的及び用法・用量以外での使用については、測定結果の信頼性を保証しかねます。
4. 使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読み、記載に従って使用してください。

【形状・構造等(キットの構成)】

コバス試薬　HAPT Gen.2

R1:緩衝液
R2:抗体試液
　抗ヒトハプトグロビンウサギポリクローナル抗体
(R1:ポジション B、R2:ポジション C)

【使用目的】

血清又は血漿中のハプトグロビンの測定

【測定原理】

本キットは血清又は血漿中のハプトグロビンを定量的に測定するもので、免疫比濁法を原理とします。抗ヒトハプトグロビンウサギポリクローナル抗体に検体を反応させると検体中のハプトグロビンと抗ヒトハプトグロビンウサギポリクローナル抗体が抗原抗体反応を起こし、凝集します。この凝集は吸光度変化としてとらえることができます。その変化量は検体中のハプトグロビン濃度に依存するので、標準液について同様に反応させて作成した検量線から検体中のハプトグロビン濃度を求めます。

【操作上の注意】

1. **測定試料の性質・採取法**
   測定試料:血清又は血漿(ヘパリン Li、EDTA-2K)
   測定試料の安定性 [1]:15～25℃で 3 ヵ月間、
   　　2～8℃で 8 ヵ月間安定
   採血管の種類によっては、測定結果に影響を及ぼす場合があります。採血管をそのまま機器にセットして測定する場合は、採血管の製造元の指示に従ってください。
   沈殿物のある検体は、使用前に遠心操作を行ってください。
   検体中に気泡が存在する場合は取り除いてください。
2. **妨害物質・妨害薬剤**
   (1) 抱合型ビリルビン及び非抱合型ビリルビン濃度 60 mg/dL、ヘモグロビン濃度 10 mg/dL、乳ビ(イントラリピッド)L インデックス 600 まで測定に与える影響は±10%以内です [2]。(ハプトグロビン濃度 30 mg/dL の試料での検討時)
   (2) 通常ヘモグロビン干渉の評価に用いられる Glick モデルはハプトグロビンの評価に適していません。生体内で、遊離ヘモグロビンとハプトグロビンは結合します。Glick の研究では、in vitro において、試料に溶血液を加えると、ハプトグロビン-ヘモグロビン複合体が形成されました。この複合体はハプトグロビン値を 10～15%低下させます。ただし、生体内ではハプトグロビン-ヘモグロビン複合体は急速に排泄され、実際には血液中に存在しないため、実検体における結果には影響しません。
   *(3) リウマチ因子は 250 IU/mL まで測定に与える影響は±10%以内です。(ハプトグロビン濃度 30 mg/dL の試料での検討時)
   (4) ハプトグロビン濃度 1,200 mg/dL までは、プロゾーンによる偽低値は認められておりません。
   (5) 一般的な薬剤の血中治療濃度域では測定に影響はありません [3, 4]。
   (6) 非常に稀なケースとして免疫グロブリン異常症、特に IgM 型(ワルデンシュトレームマクログロブリン血症)の場合、信頼性に欠ける結果となる場合があります [5]。
   (7) イムノアッセイでは、非特異反応物質が存在した場合、得られた結果に対して、非特異的反応を完全に否定できない場合があります。
3. **その他**
   *本試薬はコバス 8000(生化学処理用 c 702 モジュール)専用です。

【用法・用量(操作方法)】

1. **試薬の調製方法**
   全ての構成試薬はそのままご使用ください。
   標準液:C.f.a.s. プロテイン(別売)を使用してください。検量線の希釈系列の作成は機器上で自動的に行われます。
2. **試薬の安定性**
   未開封時:　2～8℃で使用期限まで安定
   *機器上:　　12 週間安定
3. **別途必要な器具・器材・試薬**
   ・コバス 8000(生化学処理用 c 702 モジュール)
   ・C.f.a.s. プロテイン
   ・プレチコントロール CC1
   ・プレチコントロール CC2
   ・コバス システム-L NACL
   使用方法は、各製品の添付文書及び取扱説明書をご参照ください。
4. **操作方法**
   詳細な操作方法は別途パラメーターを用意してありますので、弊社までお問い合わせください。
   (コバス 8000(生化学処理用 c 702 モジュール)の例)
   (1) 検体は機器上で生理食塩液にて 21 倍希釈し試料とします。
   *(2) 精製水(試薬ブランク用)、標準液又は試料 5.5 μL を量り取ります。緩衝液 110 μL を加え、37℃でインキュベーションします。
   (3) 抗体試液 50 μL を加え、37℃でインキュベーションします。
   (4) 5 分以内に吸光度変化量を主波長 340 nm、副波長 700 nm で測定します。
   (5) 標準液の吸光度変化量から検量線を作成し、試料の吸光度変化量からハプトグロビン濃度を求めます。
5. **精度管理**
   精度管理には、プレチコントロール CC1、プレチコントロール CC2 (別売)をご使用ください。

【測定結果の判定法】

1. **測定結果の判定及び参考基準範囲**
   *参考基準範囲:30～200 mg/dL (0.3～2.0 g/L) [6]
   基準範囲は、測定試料、測定条件、基準個体などにより異なる場合がありますので、各施設で臨床医と相談の上、設定してください。

*2. **単位換算式**
   mg/dL＝g/L×100

3. **結果の判定にかかる注意**
   測定範囲上限を超える高値を示した検体又は、あらかじめ高値が予測される検体については、生理食塩液などを用いて検体を適宜希釈して測定してください。

【性能】

1. **性能**
   【用法・用量(操作方法)】の記載に従い、感度・正確性・同時再現性の各試験を行った場合、下記の規格値に適合します。
   (1) **感度及び正確性試験**
   既知濃度の管理用試料を測定するとき、既知濃度の±15%以内です。
   (2) **同時再現性試験**
   同一管理用試料を 3 回同時に測定するとき、測定値のCV値はそれぞれ 10%以下です。
   (3) **測定範囲**
   *10～570 mg/dL (0.1～5.7 g/L)

(4) 測定下限値

*LDL: 10 mg/dL(0.1 g/L)

測定下限値は、0 濃度の試料として精製水を用いて多重測定した結果から求めています。(mean + 3SD、n = 21)

2. 相関性試験成績

本品と既存製品との相関性を検討したところ、128 例の血清検体において良好な相関性が得られました[7]。

相関係数 r=0.999

*回帰式 y=0.950x + 0.052 g/L

y:本品 x:既存製品

**3. 較正用の基準物質

IFCC血漿蛋白国際標準品(IRMM ERM-DA470k/IFCC)

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上(危険防止)の注意

(1) 検体及び本品の取扱いには、使い捨て手袋、実験着などの保護衣及び保護用眼鏡を着用するなど、人体に直接触れないように注意してください。また、測定終了後はよく手を洗ってください。

(2) 試薬が誤って目や口に入った場合には、直ちに水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。

(3) 試薬が誤って皮膚及び粘膜に付着した場合には、直ちに大量の水で洗い流してください。

(4) 試薬をこぼした場合には水で希釈してから拭き取ってください。

(5) 検体をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

(6) 検体及び本品を取り扱う場所では飲食又は喫煙をしないでください。

(7) 検体は HIV、HBV、HCV などのウイルスによる感染の危険性があるものとして取り扱い、検体又は検査に使用した器具類は高圧蒸気滅菌器を用いて 121℃で 20 分間以上加熱滅菌処理をするか、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)に 1 時間以上浸すなどにより消毒してください。これらの作業中は、じゅうぶんに換気を行ってください。

2. 使用上の注意

(1) 試薬及び消耗品は専用のものを使用し、その容器・付属品などはほかの目的に転用しないでください。

(2) 試薬は必ず貯蔵方法に従って保存し、凍結させるなど指定の条件以外で保存したものや使用期限を過ぎたものは使用しないでください。

(3) ロットの異なる試薬又は残った試薬を混ぜ合わせて使用しないでください。

(4) 試薬カセット内の試薬ボトルの組合せを変えないでください。

*(5) RFID をぬらしたり、強く押さないでください。

(6) すべての試薬は保存又は反応中に強い光を当てないでください。

(7) すべての試薬は開封又は分注時に微生物の汚染を避けてください。

(8) 測定系の調製には必ず精製水を使用し、水道水は用いないでください。

(9) 検体は使用前に 15～25℃に戻し、よく混和してください。ただし、激しく振り混ぜたり、泡立てたりしないでください。

(10) 本品を保存する際は、垂直の状態で保存してください。

(11) 本品の試薬カセットは再使用できません。

3. 廃棄上の注意

(1) 測定により生じた廃液については、検体などと同様に滅菌又は消毒の処理を行ってください。また、これらを廃棄する場合には、各都道府県によって定められた規定に従ってください。

(2) 使用後の容器を廃棄する場合には、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物又は産業廃棄物など区別して処理してください。

(3) 廃棄する際は、水質汚濁防止法等の規制に留意して処理してください。

(4) 検体及び試薬をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

*(5) 緩衝液及び抗体試液には保存剤として 0.1%以下のアジ化ナトリウムが含まれています。アジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応して爆発性の金属アジドを生成することがあるため、廃棄の際には多量の水で洗い流してください。

4. その他の注意

本品による測定値は既存製品と高い相関性を示しますが、系統的な誤差を生じる場合がありますので、必要に応じて相関性について検討されることをお勧めします。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法

2～8℃で保存してください。

2. 有効期間

*24 ヵ月

使用期限(Exp.)は外箱に記載してあります。

【包装単位】

コバス システム-L コバス試薬 HAPT Gen.2 150 テスト

R1:緩衝液 16.5 mL

R2:抗体試液 7.5 mL

【主要文献】

1) Töpfer G, Hornig F, Sauer K, et al. Untersuchungen zur Stabilität von 11 Serumproteinen bei Bestimmung mittels Immunturbidimetrie. J Lab Med 2000;24(3):118-125.

2) Glick MR, Ryder KW, Jackson SA. Graphical Comparisons of Interferences in Clinical Chemistry Instrumentation. Clin Chem 1986;32:470-475.

3) Breuer J. Report on the Symposium "Drug effects in Clinical Chemistry Methods". Eur J Clin Chem Clin Biochem 1996;34:385-386.

4) Sonntag O, Scholer A. Drug interference in clinical chemistry: recommendation of drugs and their concentrations to be used in drug interference studies. Ann Clin Biochem 2001;38:376-385.

5) Bakker AJ, Mücke M. Gammopathy interference in clinical chemistry assays: mechanisms, detection and prevention. Clin Chem Lab Med 2007;45(9):1240-1243.

6) Dati F, Schumann G, Thomas L, et al. Consensus of a group of professional societies and diagnostic companies on guidelines for interim reference ranges for 14 proteins in serum based on the standardization against the IFCC/BCR/CAP reference material (CRM 470). Eur J Clin Chem Clin Biochem 1996;34:517-520.

7) 自社データ

【問い合わせ先】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

カスタマーソリューションセンター

〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70

フリーダイヤル: 0120-600-152

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70

フリーダイヤル: 0120-600-152

COBAS is a trademark of Roche.

コバスは Roche の商標です。